

書窓

Shoso

No.337

2013.3

太子町立図書館 編集発行

〒671-1561

兵庫県揖保郡太子町鶴
1310 番地 7

Tel (079)277-1580

Fax(079)277-5684

私のスローライフ

本とわたし

319

牛島 恒男

「食べず嫌い」という言葉が有りますが、数年前までの私は読書に関してはずいぶん「読まず嫌い」だったように思います。そのように本とは縁の無かった私ですが、退職を機に有り余る時間を得ることになりました。これからその時間をどうやって過ごすかと思案していた時、妻から「本でも読んだら」と言われ、その一言がきっかけで私の図書館通いが始まりました。

ちよつと余談になりますが、私の妻は無類の本好きで図書館には何十年とお世話になっています。そんな関係で妻の借りた本を手にすることはあつたのですが、一頁も読めばまるで催眠術にでもかかったように眠ってしまうといった状態でした。

そんな私が図書館デビューで借りた記念すべき一冊、残念ながらどのような本だったのか覚えてはいませんが、最後まで読み切った達成感だけは今も忘れることは有りませ

ん。ちよつと大袈裟に言えば山登りで頂上に立った、そんな感覚だったように思います。

図書館通いを始めて数年になりますが、今もジャンルは限られていて、主に宇宙や科学、第二次世界大戦の検証や戦跡地巡りの記録などの戦争に関する本が愛読書となっています。中でも宇宙に関する本には特に興味が有り、最近では『ホーキング宇宙の始まりと終わり』は大変面白く読みました。

そこで、これまでに読んだ本から宇宙に関する事柄の一部を紹介したいと思えます。

宇宙の始まりですが、今から一三七億年前“ビッグバン”と称される大爆発にて始まったとの事で、現在もなお宇宙は高速で膨張を続けているとのことです。私達が普段目にする大空は、昼には太陽が、夜には星が輝くといったもので宇宙の変化を直接感じる事は有りませんが、でもこの広い宇宙では寿命の尽きた星が爆発にて消滅し、そして新たに誕生する、そんな事が繰り返されているのです。このような事象ひとつとっても本は私の好奇心を刺激してやみません。

そんな図書館にこれからも足繁く通い続けたいと思っています。

(石海)

新着図書紹介(ノン・フィクション)

2013. 3

書名	著者	出版社	請求記号
本読みの獣道	田中 眞澄	みすず書房	019
「死ぬのが怖い」とはどういうことか	前野 隆司	講談社	114.2
赤穂事件と四十六士	山本 博文	吉川弘文館	210.5
20世紀遺跡 帝国の記憶を歩く	栗原 俊雄	角川学芸出版	210.6
二・二六事件蹶起将校最後の手記	山本 又	文藝春秋	210.7
古代ローマ帝国1万5000キロの旅	アルベルト・アンジェラ	河出書房新社	232.8
5日間の休みで行けちゃう！絶景・秘境への旅		A-Works	290
「北朝鮮帰還」を阻止せよ 日本に潜入した韓国秘密工作	城内 康伸	新潮社	316.8
ひとたまりもない日本 根拠なき「楽観論」への全反論	藤巻 健史	朝日新聞出版	332.1
善意で貧困はなくせるのか？ 貧乏人の行動経済学	ディーン・カーラン	みすず書房	333.8
労働組合運動とはなにか 絆のある働き方をもとめて	熊沢 誠	岩波書店	366.6
70歳すぎた親をささえる72の方法	太田 差恵子	かんき出版	367.7
元気いっぱい！鬼ごっこ50 年齢別アレンジつき	羽崎 泰男	ひかりのくに	376.1
発達障がい児の子育て ママたちが見つけた大切なこと	子育てネット	大和書房	378
昭和の洋食平成のカフェ飯 家庭料理の80年	阿古 真理	筑摩書房	383.8
集落が育てる設計図 アフリカ・インドネシアの住まい		LIXIL出版	383.9
新社会人のための基本マナー&常識	杉本 祐子	主婦の友社	385.9
兵士は起つ 自衛隊史上最大の作戦	杉山 隆男	新潮社	392.1
「科学にすぎるな！」宇宙と死をめぐる特別授業	佐藤文隆 艸場よしみ	岩波書店	404
地図をつくった男たち 明治の地図の物語	山岡 光治	原書房	448.9
「つながり」の進化生物学 はじまりは、歌だった	岡ノ谷 一夫	朝日出版社	481.7
シロアリ 女王様、その手がありましたか！	松浦 健二	岩波書店	486.3
冷えとり整体12カ月 かんたんセルフケアで体が変わる	野村 奈央	メディアファクトリー	492.7
リカと3つのルール 自閉症の少女がことばを話すまで	東条 健一	新潮社	493.9
内診台から覗いた高齢出産の真実	宋 美玄	中央公論新社	495.7
性能限界 モノづくり日本に立ちはだかるもう一つの壁	井熊 均	日刊工業新聞社	502.1
重機の世界	高石 賢一	東京書籍	513.8
金曜官邸前抗議 デモの声が政治を変える	野間 易通	河出書房新社	543.5
今すぐ使えるかんたんiPhone5入門	柳井 美紀	技術評論社	548
色が好き手触りが好き私色の春夏ニット	中村 和代	文化出版局	594.3
はじめての通園通学バッグとグッズ		日本ヴォーグ社	594.7
作ってあげたいフェルトのぬいぐるみ	さいとう のりこ	パッチワーク通信社	594.9
僕ら地域おこし協力隊 未来と社会に夢をもつ	矢崎 栄司	学芸出版社	601.1
トウガラシの叫び (食の危機)最前線をゆく	カート・フリーズほか	春秋社	617.6
はじめての自然農で野菜づくり		学研パブリッシング	626.9
クレマチスの咲く庭づくり	及川 洋磨	講談社	627.5
山靴の画文ヤ辻まことのこと	駒村 吉重	山川出版社	723.1
ロシアの挿絵とおとぎ話の世界		パイインターナショナル	726.5
もっと知りたい書聖王羲之の世界		東京美術	728.2
キャパの十字架	沢木 耕太郎	文藝春秋	740.2
モーツァルトとナチス 第三帝国による芸術の歪曲	エリック・リーヴィー	白水社	762.3
完全なるチェス 天才ボビー・フィッシャーの生涯	フランク・ブレイディー	文藝春秋	796.9

書名	著者	出版社	請求記号
一路 上・下	浅田 次郎	中央公論新社	アサ
輝天炎上	海堂 尊	角川書店	カイ
桜ほうさら	宮部 みゆき	PHP研究所	ミヤ
ハピネス	桐野 夏生	光文社	キリ
山あり愛あり	佐川 光晴	双葉社	サガ
烈風のレクイエム	熊谷 達也	新潮社	クマ
夢を売る男	百田 尚樹	太田出版	ヒヤ
ローカル線で行こう!	真保 裕一	講談社	シン
碧空のカノン 航空自衛隊航空中央音楽隊ノート	福田 和代	光文社	フク
55歳からのハローライフ	村上 龍	幻冬舎	ムラ
届け物はまだ手の中に	石持 浅海	光文社	イシ
月の魔法	川上 健一	角川書店	カワ
なぜ猫は旅をするのか?	永嶋 恵美	双葉社	ナガ
憧れの女の子	朝比奈 あすか	双葉社	アサ
ホテル・コンシェルジュ	門井 慶喜	文藝春秋	カド
あん	ドリアン 助川	ポプラ社	スケ
卒業するわたしたち	加藤 千恵	小学館	カト
九死一生	小手鞠 るい	小学館	コデ
隠された刻	坂東 眞砂子	新潮社	バン
黙示	真山 仁	新潮社	マヤ
蜂蜜秘密	小路 幸也	文藝春秋	シヨ
いよう!	山田 宗樹	ポプラ社	ヤマ
連れ猫	吉野 万理子	新潮社	ヨシ
幸	香納 諒一	角川春樹事務所	カノ
沈黙の町で	奥田 英朗	朝日新聞出版	オク
国を蹴った男	伊東 潤	講談社	イト
むつかしきこと承り候 公事指南控帳	岩井 三四二	集英社	イワ
糸車	宇江佐 真理	集英社	ウエ
闇医者おゑん秘録帖	あさの あつこ	中央公論新社	アサ
信長の二十四時間	富樫 倫太郎	NHK出版	トガ
働哭の家	江上 剛	ポプラ社	エガ
消えたなでしこ 十津川警部シリーズ	西村 京太郎	文藝春秋	ニシ
ドンナビアンカ	誉田 哲也	新潮社	ホン
孤独の絆 探偵・竹花	藤田 宜永	文藝春秋	フジ
三日間の相棒	永瀬 隼介	中央公論新社	ナガ
神隠し	長野 慶太	日本経済新聞出版社	ナガ
沈黙の町で	奥田 英朗	朝日新聞出版	オク
ツリー 上・下	高橋 克彦	双葉社	タカ
俳句で綴る変哲半生記	小沢 昭一	岩波書店	911.3
終わりの感覚	ジュリアン・バーンズ	新潮社	Fバン
孤独な天使たち	ニコロ・アンマニーティ	河出書房新社	Fアン
真昼の視線	李 承雨	岩波書店	Fイ

おおきなかぶ

A・トルストイ再話 内田莉沙子訳

佐藤忠良画 (福音館書店)

おじいさんがかぶをうえました。「甘い甘いかぶになれ。大きな大きなかぶになれ」とてもなく大きいかぶができました。ところが、かぶはぬけません。おじいさんはおばあさんをおいさんできました。おばあさんがおじいさんを引っぱって、おじいさんがかぶを引っぱって「うんとこしょ、どっこいしょ」。それでもかぶはぬけません。孫を呼び、犬、猫を呼んできて引っぱってもぬけません。猫はねずみを呼んできました。みんな「うんとこしょ、どっこいしょ」。やつとかぶはぬけました。

ロシアの民話をもとにした絵本。聞いている子どもたちも声をあわせてかぶを引っぱります。表紙から裏表紙にかけて、大きなかぶをかついで帰る場面に満足することでしょう。(池田)



このページは子どもたちにすすめたい本をとりあげています。本を選ぶときの参考にしてください。

子どもの本だな 153

時の旅人

アスソン・アトリー 作

松野正子 訳 (岩波少年文庫)

体の弱いペネロピーは、サツカーズ農場の親戚の元にあずけられました。そこは古くから続く農場で、屋敷は何百年も前には領主が住んでいたものでした。

ある日、ペネロピーがドアを開けると、部屋の様子が変わり、古めかしい装いの貴婦人たちがいました。そこは十六世紀のサツカーズだったのです。ペネロピーは現在と過去を行き来するようになり、先祖である女中頭に迎え入れられました。芸術を愛し、読み書きができるので、奥方に気に入られ、領主のアンソニーやその弟フランシスとも親しくなりました。領主はエリザベス女王の囚われ人であるメアリー・スチュアートに忠誠を尽くし、地下のトンネルを使って近くの荘園屋敷から逃亡させようとしていました。歴史を知っているペネロピーは、失敗すると分かりつつも、メアリー女王を救いたいと願い、過去の人々に寄り添います。

現在と過去のサツカーズが二重写しとなり、変わらないものと変わってしまったものが鮮明に描かれています。ふたつの時代の人々の暮らしや建物、自然などが存分に味わえます。十一歳くらいから。

(小西)

<新しい大活字本が入りました>

- | | |
|----------------------|--------|
| 獅子の系譜(上・中・下) | 津本 陽 |
| 大盗の夜 土御門家・陰陽事件簿(上・下) | 澤田 ふじ子 |
| 銀座開化おもかげ草紙(上・下) | 松井 今朝子 |
| 素行調査官(上・下) | 笹本 稜平 |
| オリンピックの身代金(1~4) | 奥田 英朗 |
| 間宮林蔵(上・中・下) | 吉村 昭 |
| 賊将(上・下) | 池波 正太郎 |
| 四文字の殺意(上・下) | 夏樹 静子 |
| 反骨 鈴木東民の生涯(上・中・下) | 鎌田 慧 |

3月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

冊数も充実し、「大きな字で読みやすい」と好評です。
参考図書コーナーの近くの書架に置いています。

3月・4月の移動図書館(いずれも木曜日です)

3月	4月	10:30 ~11:00	11:10 ~11:40	14:30 ~15:00	15:10 ~15:40	16:00 ~16:30
7日	11日	塚森 公民館	/	福地 三反長 地域内	米田 公会堂	竹広南 公民館
14日	18日	岩見構下 公民館	岩見構上 公会堂	原池団地 公民館	山田 掲示板 前	原 太田東地 区農村交 流センター
21日	25日	広坂 ポスト前	上太田 公民館	沖代 地域内	吉福 公民館	太子ニ ュー タウン 公民館

4月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

×印は休館、□印は午後1時まで開館。
開館は10時からです。
金曜日は午後8時まで開館しています。

地 下 水

この冬は毛布を出すことなく過ごせた。二月の誕生日にもらった腹巻のおかげだと思ふ。あまりに温かく、日中も着用するので、洗い替えに二枚買い足した。

『ニヤータのぼうし』という絵本がある。おばあさんがねこに毛糸の帽子を編もうとすると、くまやきつね、たぬきがやってくる。そのたびに、毛糸は襟巻、手袋、腹巻に変わり、毛糸玉は小さくなっていき・・・というおはなしだ。おはなしの時間に読んでみると、一人の子が「襟巻ってなに？」すかさず、隣の子が「マフラーのこと」。そうか、今はマフラーが一般的な呼び名なのかと思ひながら先へ読み進めていくと、別の子が「腹巻ってなに？」腹巻は腹巻以外に呼び方があるのだろうか。周りの子どもからも助け舟は出なかつた。「ばあちゃんが編み終わるのを待って。」と説明は絵に任せた。

同じものを指すのに使う言葉が世代によって違ってきていること、この冬までは、腹巻は子どもとおじさんのためのものと思ひつたのに、それを知らない子もいることに、新鮮な驚きがあった。先輩Uの夫君は、下着のシャツのことを襦袢じゅばんと呼ぶそう。「襦袢は着物の下着でしょう」と笑ったが、若い世代にするに昔っぽいと聞こえる言葉を自分も使っているのだからなとおかしく思う。(竹内)